

行番号		追加・削除・変更を行う項目	意見の種類	意見及びその理由等
723		慢性関節リウマチの代表的な治療薬(列挙)、作用機序および主な副作用	変更	慢性関節リウマチの代表的な治療薬、作用機序および主な副作用
723		慢性関節リウマチの代表的な治療薬(列挙)、作用機序および主な副作用	変更	「薬理作用、機序、主な副作用」との記載と、「作用機序と主な副作用」との記載があり、いずれかに統一するのが好ましい。
723		慢性関節リウマチの代表的な治療薬(列挙)、作用機序および主な副作用	削除	各臓器・組織に用いる薬の作用機序や副作用に関する項目は各疾病と関連づけて教えるのが望ましい。上記に挙げた項目(780～878)とほとんどが重複するため、どちらか一方は必要ない。
723		慢性関節リウマチの代表的な治療薬(列挙)、作用機序および主な副作用	変更	現在関節リウマチに疾患名が統一されているため、2006年、厚生労働省による特定疾患の名称も「関節リウマチ」に変更された。
723		慢性関節リウマチの代表的な治療薬(列挙)、作用機序および主な副作用	変更	慢性関節リウマチは関節リウマチにしていだきたい
724		アレルギーの代表的な治療薬(列挙)、作用機序、臨床応用、および主な副作用	変更	アレルギーの代表的な治療薬、作用機序、臨床応用、および主な副作用
724		アレルギーの代表的な治療薬(列挙)、作用機序、臨床応用、および主な副作用	変更	「薬理作用、機序、主な副作用」との記載と、「作用機序と主な副作用」との記載があり、いずれかに統一するのが好ましい。
724		アレルギーの代表的な治療薬(列挙)、作用機序、臨床応用、および主な副作用	削除	各臓器・組織に用いる薬の作用機序や副作用に関する項目は各疾病と関連づけて教えるのが望ましい。上記に挙げた項目(790～878)とほとんどが重複するため、どちらか一方は必要ない。
725	化学構造	代表的な薬物の基本構造	追加	「診断薬・生体調節系に作用する薬物の作用機序・眼に作用する薬物の作用機序・皮膚に作用する薬物の作用機序」がない
725		代表的な薬物の基本構造	変更	「薬理作用、機序、主な副作用」との記載と、「作用機序と主な副作用」との記載があり、いずれかに統一するのが好ましい。
726	(4)薬物の臓器への到達と消失	薬物の主な吸収部位(列挙)	変更	薬物の主な吸収部位
726		薬物の主な吸収部位	削除	重要性の優先順位が低いために、削除を望む。
726		薬物の主な吸収部位(列挙)	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
727		薬物の細胞膜透過機構を説明できる	追加	727の後に追加。薬物の細胞膜透過機構を理解できることは、薬物の体内動態を理解する上で必須となる
727		消化管の構造、機能と薬物吸収の関係	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
728		受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴	変更	「受動拡散(単純拡散)、促進拡散と能動輸送の特徴を対比して説明できる」に変更。薬物の主な細胞膜透過機構の特徴を対比することで、とても理解しやすい
728		受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
728		受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴	追加	「代表的な薬物輸送担体、駆動力、基質(列挙)」を追加する。
729		能動輸送の特徴	削除	728に包含することで、削除できる
729		能動輸送の特徴	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
729		能動輸送の特徴	追加	「代表的な薬物輸送担体、駆動力、基質(列挙)」を追加する。
730		非経口投与後の部位別の薬物吸収	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
731		薬物の吸収に影響する因子(列挙)	変更	薬物の吸収に影響する因子

行番号		追加・削除・変更を行う項目	意見の種類	意見及びその理由等
731		薬物の吸収に影響する因子(列挙)	追加	生物学的同等性および試験法 【意見】薬学教育モデル・コアカリキュラムでは「薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる」の中に含まれているが、「生物学的同等性」は吸収に影響する因子とは異なる項目であり、定義、意義および試験法も含めて、独立した項目とした方が適切であると考えられる。 【理由】後発品の使用促進や新薬開発難易度の上昇に伴う医薬品の創製促進、患者の服薬利便性の向上を目的とした創製促進(長期慢性製剤など)に伴い、生物学的同等性試験の重要性が高まっており、薬剤師として生物学的同等性とその試験法についての理解は重要であるため
731		薬物の吸収に影響する因子(列挙)	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
732	分布	薬物が生体内に取り込まれた後に組織間で濃度差が生じる要因	変更	タイトルが冗長であるのでより簡潔に。例:分布の部位特異性
732		薬物が生体内に取り込まれた後に組織間で濃度差が生じる要因	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
733		薬物の脳への移行の機構と血液-脳関門の意義	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
734		薬物の胎児への移行の機構と血液-胎盤関門の意義	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
735		薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)、組織への移行との関連性	変更	「薬物の体液中での存在状態、組織への移行性と薬効・副作用の発現を理解できる」に変更。薬物の体液中での存在状態(タンパク結合型か遊離型か)と組織移行性と同時に、最終的アウトカムの薬効・副作用の繋がりを理解していることが薬剤師として必須となる。
735		薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)、組織への移行との関連性	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
736		薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
737		分布容積が著しく大きい代表的な薬物(列挙)	変更	分布容積が著しく大きい代表的な薬物
737		分布容積が著しく大きい代表的な薬物(列挙)	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
738		代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる	変更	代表的な薬物のタンパク結合能
738		代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる	変更	代表的なタンパク結合能の測定法を説明できる。とする。理由:試験場で対応できる内容とする。
738		代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる	削除	薬剤師資格に必須の項目ではない。試験に馴染まない。
738		代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる	削除	出題するのに相応しくない。
738		代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
738		代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる	変更	「代表的な薬物のタンパク結合の測定法、タンパク結合データの解析法を説明できる」とする
739	代謝	薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位(列挙)	変更	薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位
739		薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位(列挙)	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。

行番号			追加・削除・変更を行う項目	意見の種類	意見及びその理由等
740			薬物代謝が薬効に及ぼす影響	変更	「薬物代謝が薬効・副作用に及ぼす影響を理解できる」に変更。薬物代謝は、薬効のみならず薬物の副作用の発現にも関与しているので。
740			薬物代謝が薬効に及ぼす影響	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
741			薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素(列挙)	変更	薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素
741			薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素(列挙)	追加	「主に肝代謝によって消失される代表的な薬物(列挙)」排泄のところでは、腎排泄型薬物を挙げさせているが、これと対で覚えるべき肝代謝型薬物については問われていない
741			薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素(列挙)	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
742			シクロロムP-450の構造、性質、反応様式	変更	薬物の還元・加水分解、抱合に整理・統合を望む。
742			シクロロムP-450の構造、性質、反応様式	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
742			シクロロムP-450の構造、性質、反応様式	追加	「主なシクロロムP450(CYP)分子種、基質(列挙)」を追加する。
743			薬物の酸化反応(具体例)	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
743			薬物の酸化反応(具体例)	追加	「主なシクロロムP450(CYP)分子種、基質(列挙)」を追加する。
744			薬物の還元・加水分解、抱合(具体例)	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
745			薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
746			初回通過効果	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
747			肝および固有クリアランス	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
747			肝および固有クリアランス	追加	「肝血律速型薬物、肝代謝律速・タンパク結合非依存性薬物の代表的なものを列挙できる」を追加する。
748		排泄	腎における排泄機構	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
749			腎クリアランス	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
749			腎クリアランス	追加	「代表的な腎排泄型薬物を列挙できる」を追加する。
750			糸球体ろ過速度	削除	腎における排泄機構の項目の中で、糸球体ろ過、分泌、再吸収と一緒に扱う方がよい。
750			糸球体ろ過速度	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
751			胆汁中排泄	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
752			腸肝循環、代表的な腸肝循環の薬物(列挙)	変更	腸肝循環、代表的な腸肝循環の薬物(列挙)

行番号			追加・削除・変更を行う項目	意見の種類	意見及びその理由等
752			腸肝循環、代表的な腸肝循環の薬物(列挙)	追加	薬物の列挙でなく、腸肝循環の意義や機構に関する知識を確認できる項目を追加する。
752			腸肝循環、代表的な腸肝循環の薬物(列挙)	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
753			唾液・乳汁中への排泄	追加	「汗、精液」または「その他」の追加備考形性のある依ウイルス剤の精液移行性などを考慮して追加してはどうか。
753			唾液・乳汁中への排泄	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
754			尿中排泄率の高い代表的な薬物(列挙)	変更	尿中排泄率の高い代表的な薬物
754			尿中排泄率の高い代表的な薬物(列挙)	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないだろうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
755		相互作用	薬物動態に起因する相互作用	変更	薬物動態に関する相互作用 薬物動態そのもの自体に相互作用があるので。
755			生理学的モデル	追加	コンパートメントモデルと並べて生理学的モデルの紹介スペースが必要
755			薬物動態に起因する相互作用(代表例)、回避のための方法	変更	より種々の検討をお願いします。
756			薬効に起因する相互作用(代表例)、回避のための方法	変更	より種々の検討をお願いします。
757	(5)薬物動態の解析	薬動学	薬物動態に関わる代表的なパラメータ(列挙)	変更	薬物動態に関わる代表的なパラメータ
757			薬物動態に関わる代表的なパラメータ(列挙)	削除	この知識は計算問題で確認できるためである。
757			薬物動態に関わる代表的なパラメータ(列挙)	追加	「...パラメータ(列挙)、それぞれのパラメータの意味を説明できる」に変更。パラメータの列挙だけでなく、それぞれのパラメータの意味を理解する必要がある
757			薬物動態に関わる代表的なパラメータ(列挙)	変更	(5)薬物動態と薬力学の解析 薬動学→薬物動態学 薬学や治療計画作成に薬力学の概念や理解は必須の項目と考えるため。また、薬物動態学の表現が一般的と考える。
757			薬物動態に関わる代表的なパラメータ(列挙)	変更	中項目(5)薬物動態と薬力学の解析 薬力学の概念、理解が必要と考えられる。
757			薬物動態に関わる代表的なパラメータ(列挙)	変更	小項目「薬物動態学」 薬物動態学の表現が一般的と考える。
758			薬物の生物学的利用能の意味とその計算法	変更	薬物の生物学的利用能の意味とその計算法
758			線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる	変更	1-コン、2-コンをあえて別にすることなく、線形コンパートメントモデルとして同一の章で扱うべきである。
759			線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる	変更	線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算
759			線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる	変更	1-コン、2-コンをあえて別にすることなく、線形コンパートメントモデルとして同一の章で扱うべきである。
759			線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる	変更	「線形1-コンパートメントモデルの代表的なパラメータについて計算できる」に変更
760			線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる	変更	線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算
760			線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる	変更	「線形2-コンパートメントモデルの代表的なパラメータについて」に変更

行番号			追加・削除・変更を行う項目	意見の種類	意見及びその理由等
760			線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる	削除	2-コンパートメントモデルに関する問題は困難であり、過去の国家試験でも1度しか出題されていない。
761			線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違い	追加	コンパートメントモデルと生理学モデルの違い
762			生物学的半減期を説明し、計算できる	変更	生物学的半減期の説明、と計算
762			生物学的半減期を説明し、計算できる	削除	この知識は計算問題で確認できるためである。
762			生物学的半減期を説明し、計算できる	追加	「分布容積について説明し、計算できる」を追加する。
763			全身クリアランスについて説明し、計算できる	変更	全身クリアランスの計算
763			全身クリアランスについて説明し、計算できる。	変更	クリアランスについて…、とすることによって、各種クリアランスをも対象にすべきである。
763			全身クリアランスについて説明し、計算できる	追加	「分布容積について説明し、計算できる」を追加する。
763			全身クリアランスについて説明し、計算できる	追加	分布容積について
764			非線形性の薬物動態(具体例)		
765			モデルによらない薬物動態の解析法(列挙)	変更	モデルによらない薬物動態の解析法
766			薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる	変更	薬物の肝および腎クリアランスの計算
767			点滴静注の血中濃度計算ができる	変更	点滴静注の血中濃度計算
767			点滴静注の血中濃度計算が出来る	変更	点滴投与だけをあえて取り上げるのはおかし。静注、経口投与も含めるか、この筆を削除
767			点滴静注の血中濃度計算ができる	追加	DIVとIV
768			連続投与における血中濃度計算ができる	変更	連続投与における血中濃度計算
768			連続投与における血中濃度計算ができる	追加	定投与間隔、不定投与間隔
769		TDM(Therapeutic Drug Monitoring)	治療的薬物モニタリング(TDM)の意義	追加	中項目(7) Pharmacokinetic/Pharmacodynamic解析を追加。薬物の血中濃度と効果及び副作用の関係を解明することは、医薬品適正使用の遂行に貢献できると考えます。従って、PK/PDに関する領域を出題範囲に加え、その教育の実践を促すべきです。PD解析を行うモデル、PKとPDを統合するモデル、薬物の血中濃度推移と薬効推移の時間的ずれを定量的に解析するモデルに関する知識が必要です。
769			治療的薬物モニタリング(TDM)の意義	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないのでしょうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
770			TDMが必要とされる代表的な薬物(列挙)	変更	TDMが必要とされる代表的な薬物
770			TDMが必要とされる代表的な薬物(列挙)	変更	項目769に統合すべきである。
770			TDMが必要とされる代表的な薬物(列挙)	変更	TDMの対象となる薬物の体内動態及びTDMの対象となる理由は多様です。従って、「TDMが必要とされる代表的な薬物とその理由(列挙)」に変更すべきと考えます。
770			TDMが必要とされる代表的な薬物(列挙)	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないのでしょうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
771			薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる	変更	薬物血中濃度の代表的な測定法
771			薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる	削除	理由:技能の内容なので、不適切。
771			薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる	削除	薬剤師資格に必須の項目ではない、試験に馴染まない。
771			薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる	変更	「薬物血中濃度の代表的な測定法」に変更。
771			薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないのでしょうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。

行番号			追加・削除・変更を行う項目	意見の種類	意見及びその理由等
771			薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる	変更	「薬物血中濃度の代表的な測定法を説明できる」とする
771			薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる	変更	「代表的な測定法を実施できる」「実施できる」を削除するか、「列挙できる」などに変更した方が良いでしょう。「実施できる」ことの評価が難しいと思われます。
772			至適血中濃度を維持するための投与計画、薬動学的パラメーター	変更	至適血中濃度を維持するための投与計画、薬動学的パラメーター
772			至適血中濃度を維持するための投与計画、薬動学的パラメーター	変更	…投与計画を、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。とする。理由:表現が不適切。
772			至適血中濃度を維持するための投与計画、薬動学的パラメーター	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないのでしょうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
773			代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる	削除	768~772に含まれるのでは?
773			代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる	削除	理由:技能の内容で不適切であり、内容的には772と主要部分で重複する。
773			代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる	削除	出題するのに相応しくない。
773			代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる	追加	773の次に薬力学の項目、および到達目標を追加し、試験問題として課する方が薬剤師職能を測る上で適切と考える。
773			代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる	追加	到達目標に以下の項目を加える。 ・治療効果と血中濃度の関係を理解できる ・効果と血中濃度の関係をモデル使って理解できる。 ・最大効果モデル(Emax)等を説明・計算できる。 773の次に薬力学の項目、および到達目標を追加し、試験問題として課する方が薬剤師職能を測る上で適切と考える。
773			代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる	変更	薬の運命とADME、あるいはTDMと投与設計など両者をまとめた方がいいのではないのでしょうか。薬物動態に関する箇所非常に多い。
773			代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる	変更	小項目「薬力学」の項目が必要と考えられる。
773			代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる	追加	治療効果と血中濃度の関係を理解できる
773			代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる	追加	効果と血中濃度の関係をモデルで理解できる。
773			代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる	追加	最大効果モデル(Emax)を説明し、計算できる。

資料1-C14

C14 薬物治療

行番号	(1)体の変化を知る	症状	追加・削除・変更を行う項目	意見の類別	意見及びその理由等
774	(1)体の変化を知る	症状	以下の症状が生じる原因とそれらを伴う代表的疾患	変更	症状が生じる原因とそれらを伴う代表的疾患
775			症状：発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱力、浮腫、悪心・嘔吐、喀下陣痛、腰痛、下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい	追加	「倦怠感 悪寒・戦慄 冷や汗 めまい たちくらみ リンパ 食欲不振 吐血 下血 紫斑 喀痰 血痰 喘鳴 筋力低下 言語障害 多尿 不眠」を症状に追加すべき
776		症状と臨床検査値	代表的な肝臓機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)	変更	代表的な肝臓機能検査、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
776			代表的な肝臓機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)	追加	肝臓能や腎機能のどちらにもあてはまらない血液生化学検査があるので、血液生化学検査(肝臓能や腎臓能検査に含まれない)を列挙し、その検査値の異常から推測される主な症状を挙げる事ができるという項目を作っていたきたい
776			代表的な肝臓機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)	追加	「血液生化学検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げる事ができる。」を追加
776			代表的な肝臓機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)	追加	「免疫学検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げる事ができる。」を追加
777			代表的な腎臓機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)	変更	代表的な腎臓機能検査、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
777			代表的な腎臓機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)	追加	肝臓能や腎機能のどちらにもあてはまらない血液生化学検査があるので、血液生化学検査(肝臓能や腎臓能検査に含まれない)を列挙し、その検査値の異常から推測される主な症状を挙げる事ができるという項目を作っていたきたい
778			代表的な呼吸機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)	変更	代表的な呼吸機能検査、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
779			代表的な心臓機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)	変更	代表的な心臓機能検査、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
780			代表的な血液および血液凝固検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)	変更	代表的な血液および血液凝固検査、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
781			代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)	変更	代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査、その検査値の異常から推測される主な疾病
782			感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動	変更	感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動
783			悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査(列挙)、推測される腫瘍部位(列挙)	変更	悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査、推測される腫瘍部位
783			悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査(列挙)、推測される腫瘍部位(列挙)	変更	推測される腫瘍部位(列挙)は推測される主要の種類(列挙)が好ましい。
784			尿および糞便を用いた代表的な臨床検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)	変更	尿および糞便を用いた代表的な臨床検査、その検査値の異常から推測される主な疾病
784			尿および糞便を用いた代表的な臨床検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)	変更	尿、便、髄液を用いた代表的な臨床検査(列挙)その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)へと変更希望。
785			動脈血ガス分析の検査項目(列挙)、その検査値の臨床的意義	変更	動脈血ガス分析の検査項目、その検査値の臨床的意義
785			動脈血ガス分析の検査項目(列挙)、その検査値の臨床的意義	追加	動脈血ガス分析に加え酸素飽和度も入れてください。
786			代表的なバイタルサイン(列挙)	変更	「代表的なバイタルサインを列挙し、確認することができる」と前向きに考えてみてはいかがでしょうか。

行番号	(2)疾患と薬物治療(心臓疾患等)	薬物治療の位置づけ	追加・削除・変更を行う項目	意見の類別	意見及びその理由等
787	(2)疾患と薬物治療(心臓疾患等)	薬物治療の位置づけ	代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療(外科手術、食事療法など)の位置づけ		
788			適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる	変更	適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断
788			適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる	変更	いわゆる総合問題や症例問題の形式が相当する。受験者の知識、判断力、問題解決能力を総合的に評価するためによいが、出題者側の問題作成能力を高めた上で導入するのがよい。
789		心臓・血管系の疾患	心臓および血管系における代表的な疾患(列挙)	変更	心臓および血管系における代表的な疾患
790			不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げられているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
791			心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げられているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
792			高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げられているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
793			虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げられているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
794			疾患：閉塞性動脈硬化症、心原性ショック	変更	閉塞性動脈硬化症、心原性ショック
794			疾患：閉塞性動脈硬化症、心原性ショック	追加	疾患に低血圧を追加：該当項目がないため
794			疾患：閉塞性動脈硬化症、心原性ショック	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げられているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
794			疾患：閉塞性動脈硬化症、心原性ショック	追加	「心原性ショック」を追加、この言葉は疾患ではなく病態なので、この言葉を生かすなら、疾患ならびに病態と、冒頭に記述すべきです。
794			疾患：閉塞性動脈硬化症、心原性ショック	追加	「低血圧症」を追加
795		血液・造血器の疾患	血液・造血器における代表的な疾患(列挙)	変更	血液・造血器における代表的な疾患
795			血液・造血器における代表的な疾患(列挙)	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げられているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
796			貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げられているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
797			白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げられているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
798			播種性血管内凝固症候群(DIC)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げられているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。

行番号		追加・削除・変更を行う項目	意見の種別	意見及びその理由等
799		疾患: 血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓	変更	血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓
799		疾患: 血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げてあるが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
799		疾患: 血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓	変更	悪性リンパ腫を悪性リンパ腫(リンパ性白血病を除く)に変更していただきたい。最近のWHOの分類では、リンパ性白血病を悪性リンパ腫に含めているため
799		疾患: 血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓	追加	造血幹細胞移植と前治療 悪性造血器疾患の治療の大きな選択肢としての移植医療について知識が必要
799		疾患: 血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓	追加	「白血球減少、血栓・塞栓」を追加。これも病態なので、疾患ならびに病態とすべきです。
799		疾患: 血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓	追加	「溶血性貧血」を追加
800	消化器系疾患	消化器系の部位別(食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓)の代表的な疾患(列挙)	変更	消化器系の部位別(食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓)の代表的な疾患
800		消化器系の部位別(食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓)の代表的な疾患(列挙)	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げてあるが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
801		消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げてあるが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
802		膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げてあるが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
802		膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	大腸炎と記載した方が、疾患名を特定しやすくなるのではないかと。
803		肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げてあるが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
804		膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げてあるが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
804		指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる	追加	胆管炎、胆のう炎の記載がないので、膵・胆道系疾患をひとまとめにする方がよいのでは。
805		疾患: 食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病	変更	食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病
805		疾患: 食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病	変更	虫垂炎とクローン病の位置は、胃炎と薬剤性肝障害の間が好ましい。
805		疾患: 食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病	追加	便秘を追加。多い疾患(症状)なので追加
805		疾患: 食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げてあるが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
805		疾患: 食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病	追加	「便秘・下痢」 疾患に追加してもよい。疾患とは言えないが、生活に伴う身近なものであるため、また、薬による代表的な副作用でもあるため示してよいと思われる。

行番号		追加・削除・変更を行う項目	意見の種別	意見及びその理由等
805		疾患: 食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病	追加	「逆流性食道炎、過敏性腸症候群を加える。」 いずれも消化器疾患として、重要であるが、記載が見当たらない。
805		疾患: 食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病	削除	「クローン病」 特発性炎症性腸疾患として、潰瘍性大腸炎とともに804の腸炎に含める。
805		疾患: 食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病	変更	「食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌」消化器系とひとまとめにした方が、よい。膵炎などの記載がないので。
805		疾患: 食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病	変更	優と悪以外に項目を分け、優は、805行に、悪以外の疾患は、個々の消化器疾患の項目に含めた方がよいのではないかと。
805		疾患: 食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病	追加	「門脈圧亢進症」、「過敏性腸症候群」、「蛋白漏出性胃腸症」、「吸収不良症候群」、「イレウス」を追加。
806		総合演習	変更	指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる
806		指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる	変更	指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる
806		指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる	変更	いわゆる総合問題や症例問題の形式が相当する。受験者の知識、判断力、問題解決能力を総合的に評価するためによいが、出題者側の問題作成能力を高めた上で導入するのがよい。
806		指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる	変更	指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる
807	(3)疾患と薬物治療(腎臓疾患等)	腎臓・尿路の疾患(列挙)	変更	腎臓および尿路における代表的な疾患(列挙)
807		腎臓および尿路における代表的な疾患(列挙)	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げてあるが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
807		腎臓および尿路における代表的な疾患(列挙)	追加	「人工透析について概説できる。」を追加。
808		腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げてあるが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
809		ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げてあるが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
810		疾患: 糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石	変更	糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石
810		疾患: 糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げてあるが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
810		疾患: 糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石	変更	腎臓を追加。薬物療法(インターフェロン)が特異的に用いられる疾患であるため
810		疾患: 糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石	追加	尿細管性アンダーシス(RTA)を追加。
811		生殖系疾患	変更	男性および女性生殖器に関する代表的な疾患(列挙)
811		男性および女性生殖器に関する代表的な疾患(列挙)	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げてあるが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。

行番号		追加・削除・変更を行う項目	意見の種別	意見及びその理由等
812		前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
813		疾患：前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内腫瘍	追加	疾患に卵巣癌、無月経、生理不順を追加。該当項目がないため
813		疾患：前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内腫瘍	追加	勃起不全を追加。薬物療法が注目されている
813		疾患：前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内腫瘍	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
813		疾患：前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内腫瘍	変更	清濁傷を追加。薬物で寛解可能な態であるため。
813		疾患：前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内腫瘍	追加	「異常妊娠、異常分娩」にの異常妊娠・分娩も疾患名ではありません。
814	呼吸器・胸部の疾患	肺と気道に関する代表的な疾患(列挙)	変更	肺と気道に関する代表的な疾患
814		肺と気道に関する代表的な疾患(列挙)	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
815		閉塞性気道疾患(気管支喘息、肺気腫)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
816		疾患：上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌	変更	上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌
816		疾患：上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌	変更	乳癌を生腫瘍疾患に変更。治療薬の観点から考へると、よりわかりやすいため
816		疾患：上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
816		疾患：上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌	追加	「拘束性肺疾患、肺塞栓」を追加。
817	内分泌系疾患	ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患(列挙)	変更	ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患
817		ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患(列挙)	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
818		甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
819		クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	クッシング症候群を副腎皮質機能異常症とし、行821を削除
819		クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
819		クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	「クッシング症候群」に特化するのではなく、副腎皮質機能異常症にすべきである(行番号818である甲状腺機能異常症に統一すべきと思われる)。
820		尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。

行番号		追加・削除・変更を行う項目	意見の種別	意見及びその理由等
821		疾患：上皮下機能異常症、アルドステロン症、アジソン病	変更	上皮下機能異常症、アルドステロン症、アジソン病
821		疾患：上皮下機能異常症、アルドステロン症、アジソン病	変更	上皮下機能異常症の後に、とカンマが2個ある。
821		疾患：上皮下機能異常症、アルドステロン症、アジソン病	削除	819でクッシング症候群を副腎皮質機能異常症とし、行821を削除
821		疾患：上皮下機能異常症、アルドステロン症、アジソン病	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
821		疾患：上皮下機能異常症、アルドステロン症、アジソン病	変更、追加	「内分泌系疾患」上皮下機能異常症を副腎皮質機能異常症に、また、束縛肥大症、巨人症、成長ホルモン分泌不全症を追加していただきたい。これらの疾患も薬物治療が可能となり、また、自分で注射することは認められている疾患もあるため
821		疾患：上皮下機能異常症、アルドステロン症、アジソン病	追加	「SIADH、Barter症候群、褐色細胞腫、インスリノーマ、副甲状腺機能異常症」を追加。
822	代謝性疾患	糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	追加	動脈硬化症を追加。多い病気になるので代謝疾患に独立して追加
822		糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
822		糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	追加	「金属イオンやアミノ酸代謝異常に関する疾患を挙げることができる。」を追加。
823		高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	脂質異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
823		高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	「高脂血症」という言葉を使うのか、「脂質異常症」とするのかわかりにくい。概念の変化に対応が必要ではないか?
823		高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	高脂血症を脂質異常症に
823		高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
823		高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	「高脂血症」→「脂質異常症」2007年日本動脈硬化学会において、「高脂血症の診断基準」が「脂質異常の診断基準」と変更されたことによる。
823		高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	高脂血症を脂質異常症に
824		高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
825	神経・筋の疾患	神経・筋に関する代表的な疾患(列挙)	変更	神経・筋に関する代表的な疾患
825		神経・筋に関する代表的な疾患(列挙)	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
826		脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	各項目の最小項目には、代表的な疾患の病態生理とそれに用いる治療薬、および使用上の注意と掲げているが、病態生理と治療薬の使用は別科目(医学概論系と薬理・臨床薬剤系)であり、それぞれ分けた方がよい。
826		脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意	変更	830の中の一過性脳虚血発作は828の脳血管疾患に含めるべき。一過性脳虚血発作は脳血管疾患の一病態であるから、この2つを統合する